

宇治の浄水場「休止」に住民反発

地下水飲みたい

京都府宇治市で、地下水を水源とする市営浄水場の休止を巡り、市と住民の対立が約1年間も続いている。水質悪化などを理由に休止を決めた市に対し、住民らは「おいしい地下水を飲み続けたい」と強硬に反対。22日未明も、浄水場への切り替え作業を住民約100人が阻止した。市は「議会も承認済み」と、あくまで休止する構えで、解決の糸口は見えない。「三野雅弘、玉勝勝三」

市「水質悪い」



同市神明の明浄水場。もともと企業が社宅用に所有していたが、78年に市に移管された。現在は、市南西部の明町と広野町の一部計910戸に給水している。

市は06年12月、原水から環境基準を超える有害物質のトリクロロエチレンなどが検出され、施設も老朽化しているとして休止を決めた。昨年3月の市議会では休止を踏まえた予算案が全会一致で可決された。市は「安全な水道水を供給することが務め」と説明する。しかし、住民らは「

年前の市への移管も住民運動で実現した経過があり、地下水へのこだわりは強い。「防災上も地下水源は必要」とも主張している。府営水道を導入しても利用者が負担する水道料金は変わらないが、市のコストについては、「水の準備は安くなる」という市側と、「他の経費を差し引けば」と約40分後

市職員の約25人が車数台で浄水場近くに集くと、屋外で警戒していた住民らが「裁判の結果をなせ待てないのか」と抗議した。職員らは「作業できる状況ではない」と約40分後

は地下水の方が良い」という住民側の意見が対立している。

両者は再三の説明会でも合意せず、今月16日、住民313人が休止差し止めを求めて京都地裁に提訴した。

に引き揚げた。